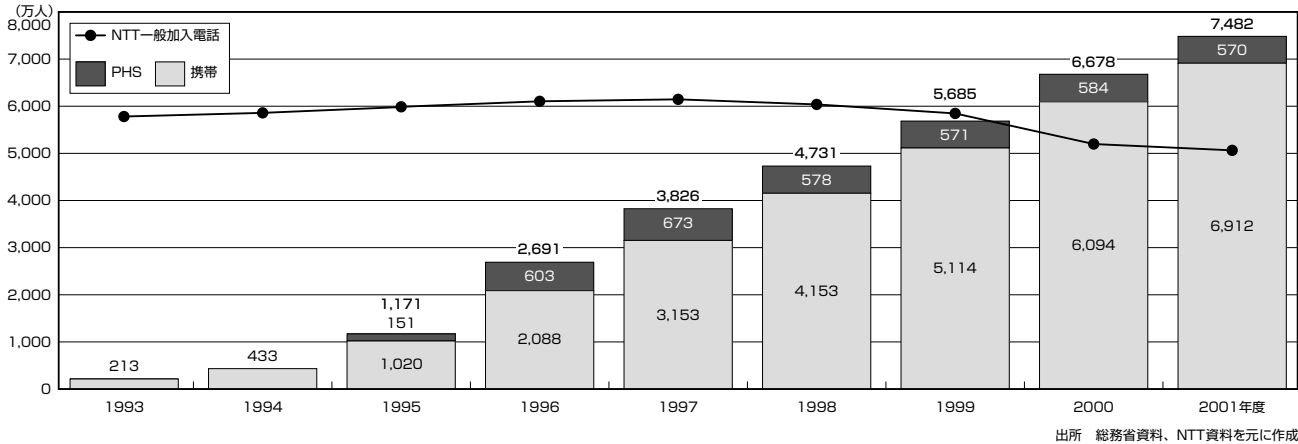


第1章 通信ネットワーク

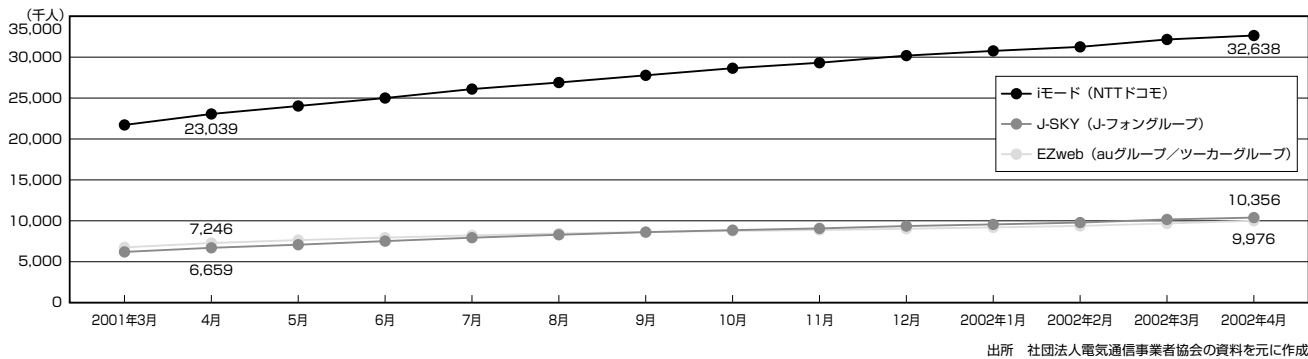
移動体通信

携帯インターネット加入者は5192万人

資料4-1-8 移動電気通信加入数の推移



資料4-1-9 携帯電話インターネットサービス契約者数の推移



解説

今や固定電話を上回る加入数を抱える携帯電話は、音声・データ・画像の通信端末としての機能はもとより、手のひらの上でデジカメ・MP3音楽プレーヤー・携帯ゲーム機などの多彩な機能を実現する道具として、日常生活に不可欠なものに成長した。総務省の発表数値（資料4-1-8）などによれば、固定電話は1997年度をピークに年間100万規模で加入数が減少し、2000年3月には加入者数5300万人のポイントで携帯電話に逆転されるに至った。さらに、携帯電話の加入者数は固定電話ユーザーを取り込む勢いで順調に増加している。PHSについては、話題性のあるサービスや端末も少なく、加入数の面では横ばい傾向で推移している。今後はAirHTM128に見られるように法人の

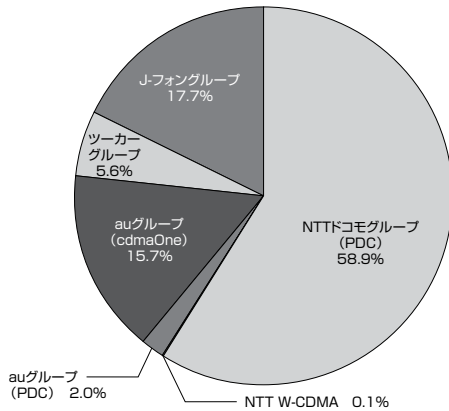
モバイルインターネットユーザーに特化した高速データサービスの提供によって根強い垂直市場を確保していくであろう。

不況下にあっても成長を続ける移動体通信市場の牽引材料は、iモードに代表される誰でも容易に使える携帯電話インターネットサービスである。今や携帯電話加入＝携帯電話インターネット加入と言っても過言ではない。老舗のiモードは2001年末に3000万加入に達し（資料4-1-9）、さらにJava機能を搭載してより強力になった503iシリーズやデータ伝送速度を28.8kbpsまでに高めた504iシリーズの市場投入によって、2002年半ばには3500万に達すると予測される。J-SKYやEZwebも画像伝送機能や位置情報（GPS）機能に特色を出しながらiモード

を追撃する格好で順調な伸びを示し、2001年度末での携帯インターネット加入者は5192万人に達した。実に、日本全体のインターネット利用者数に匹敵する規模にまで成長したことになる。

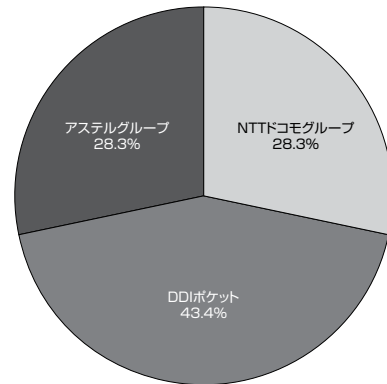
携帯電話のキャリア別市場シェア（資料4-1-10）を2001年度末で見ると、NTTドコモグループが約60%を占め、次いでVodafoneグループの一員となって新サービスや新端末の市場投入で健闘しているJ-フォングループが約17%、そして僅差でauグループが約17%弱のシェアを有している。世界規模で移動体通信キャリアの合従連衡が進むなか、売却の噂が流れるツーカーグループは約6%のシェアに留まっているが、同社の行方によって市場シェアに変化が現れるかもしれない。

資料4-1-10 携帯電話キャリア別市場シェア



出所 社団法人電気通信事業者協会の資料を元に作成

資料4-1-11 PHSキャリア別シェア



出所 社団法人電気通信事業者協会の資料を元に作成

資料4-1-12 国内の主要MVNO

MVNO名	サービス名称	基本月額料金 (法人向け、ユーザ1人当たり)	備考
日本通信	bモバイル・ データサービス	1,000~7000円	接続時間、利用人数 により異なる
京セラ コミュニケーションズ	KWINS (KCCS Wireless IP Network Service)	6,800円	
三菱電機 情報ネットワーク	MINDモバイル ネットワークサービス	6,800円	
鷹山 (マジックメール)	未定	未定	TTNetからPHS網を 購入。無線LAN、ポケ ベルと組み合わせ。 当初は32kbps
DDIポケット	AirH [®]	9,300円	

出所 各社発表資料および報道記事を元に筆者作成

資料4-1-13 NTTドコモの出資・提携先一覧

国名	出資・提携先	利用者数	開始時期	出資額	出資比率
フランス	ブイグテレコム	660万人	2003年春予定	なし	
オランダ	KPNモバイル	520万人	2002年4月から	4070億円	15%
ドイツ	Eプラス	750万人	2002年3月から		(KPNモバイルの子会社)
ベルギー	KPNオレンジ	100万人	2002年6月から		(KPNモバイルの子会社)
アメリカ	AT&Tワイヤレス	1950万人	2002年秋から	1兆1870億円	16%
台湾	KGテレコム	450万人	2002年6月から	667億円	21%
マレーシア	マクシスモバイル	230万人	2003年春予定	なし	

(注) 台湾、マレーシアの利用者数は筆者調べ

出所 日本経済新聞2002年6月6日付けより作成

解説

次世代携帯電話として注目される3G市場で、世界で最初に商用サービスとして導入されたW-CDMA方式のFOMAは、まだ萌芽期の段階であり、NTTドコモのシェアには寄与していない。しかし、高速動画伝送や音声とデータの同時伝送などの新機能も豊富であり、今後の伸びが大いに期待される。

携帯電話に比べると市場では低迷しているPHS市場ではあるが、モバイルコンピューティングを駆使するビジネスユーザーを中心に支持層は厚い。市場シェアでは、DDIポケットが約300万加入を有して約43%を占めている。残りをNTTドコモグループとアステルグループが二分している(資料4-1-11)。DDIポケットは、低迷する個人利用者向けの販売戦略を見直

し、法人向け割引の導入やMVNO(Mobile Virtual Network Operator)向けの営業戦略を武器に、モバイルECやモバイルASP事業者と連携しつつ事業領域を確保している(資料4-1-12)。さらに、法人向けのパッケージ型ソリューションをMVNOと共同開発するなどして、PHS市場の新たな展開に期待したい。

携帯電話を核としたモバイルインターネットユーザーの普及は、今後も日本が世界市場をリードする形で進展する傾向にある。中でも携帯電話インターネット接続の代名詞にもなったiモードは、ドイツ、オランダ、ベルギーでのサービス開始をはじめ、世界7か国に採用されている(資料4-1-13)。今後、3G世代においてもiモードの基本コンセプトを活かしつつ

世界のデファクトへと成長するだろう。

一方、携帯電話機は、通信機能はもとより、IrDAやBluetoothなどの近距離ワイヤレス通信方式の特徴を活かしつつ、クレジット、プリペイド、定期券などの機能を含めた非接触の統合型スマートカードの中心的な役割を果たすことが予測される。さらにデジカメ内蔵機種の普及によって、個人参加型のインタラクティブモバイル放送やGPS機能を駆使したマンナビ機能、位置情報と連動した課金システム、携帯電話をFWA(Fixed Wireless Access)として使用可能な課金方式など、多彩な位置情報依存型サービスも大きく開花するであろう。

(高川雄一郎 早稲田大学国際情報通信大学院)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp